

## 令和2年度 健康いわて 21 プラン（第2次）の推進について

「いわて県民計画（2019～2028）」においては、県民の幸福に大きく関わる「健康」が10の政策項目の最初に位置づけられ、第1期アクションプランでは「健康寿命（平均自立期間）」及び「がん、心疾患及び脳血管疾患で死亡する人数（10万人当たり）」をいわて幸福関連指標とし、目標達成に向けて「生涯を通じた健康づくり」の取組を推進することとしたところであり、令和2年度においては次の事項を重点的に進める。

- (1) 生活習慣病の発症予防と重症化予防の推進
- (2) 働き盛り世代の健康づくりの取組の推進
- (3) 医療費等ビッグデータ利活用環境の整備

### ◆「健康・余暇」いわて幸福関連指標

健康寿命（平均自立期間）

現状値(2016)男性 79.32年、女性 83.96年 ⇒ 目標値(2021)男性 80.60年、女性 84.84年

がん、心疾患及び脳血管疾患で死亡する人数（10万人当たり）

現状値(2016)男性 305.1人、女性 158.7人 ⇒ 目標値(2021)男性 273.8人、女性 135.7人

## (1) 生活習慣病の発症予防と重症化予防の推進

### ① 受動喫煙防止対策、禁煙支援等

#### ア 受動喫煙防止対策の推進【拡充】

望まない受動喫煙を防止するため、改正健康増進法の全面施行(令和2年4月)に伴う受動喫煙防止措置の徹底、法執行体制の整備

#### イ 禁煙支援等喫煙対策の推進

- ・ 市町村・学校・企業等における禁煙・防煙リーダー研修会の開催、禁煙支援マスター（保健所長）等による禁煙・防煙教室の開催及び地域における喫煙ストップキャンペーンの実施（喫煙ストップ大作戦促進事業）
- ・ 禁煙希望者に対する面談、禁煙補助剤の配付などの禁煙支援を実施（禁煙サポート推進事業）

### ② 特定健診及びがん検診受診率の向上【継続】

#### 具体的推進方策指標

「特定健康診査受診率」 現状値(2016)52.0%→目標値(2021)67.6%

「がん精密検査受診率」 胃がん 現状値(2015)89.7%→目標値(2020)94.0%

肺がん 現状値(2015)91.9%→目標値(2020)95.0%

大腸がん 現状値(2015)82.8%→目標値(2020)95.0%

子宮頸がん 現状値(2015)88.4%→目標値(2020)94.0%

乳がん 現状値(2015)96.3%→目標値(2020)98.0%

ア 市町村の個別課題に対応した健診（検診）受診勧奨等のスキルアップを支援

イ ナッジ理論などの手法を活用した実践結果に対するフォローアップ研修会の開催

- ③ **糖尿病性腎症重症化予防対策の推進について【拡充】**・・・・・・・・【参考資料 2】
- ア 糖尿病性腎症重症化予防プログラムの効果的推進のための検討、市町村支援の実施
- イ 協力医療機関リストの作成、三師会（医師会、歯科医師会、薬剤師会）連携によるモデル的な取組の推進
- ④ **県内外の健康づくり施策等の展開等【継続】**・・・・・・・・・・・・・・・・【参考資料 3】
- ア 歩行数の増加等に向けた「プラス 2000 歩実践企画」の募集（～9 月頃）
- イ 県内外の優良事例、応募企画等の市町村や県民への周知、取組促進、「健康スクラム推進連絡会」における各部局連携施策への反映検討
- ⑤ **口腔の望ましい生活習慣定着支援**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【参考資料 4】
- ア 保育所・幼稚園及び学校におけるフッ化物洗口推進に向けた、フッ化物洗口マニュアルの普及、保健所担当者研修会及び学校等の関係者研修会等の開催
- イ 大規模災害に備え、H31 年度に災害時歯科保健医療活動ガイドラインを策定中であり、令和 2 年度に当該ガイドラインを用いた研修会の開催、訓練の実施等により災害時における対応力の向上を図る。

## (2) 働き盛り世代の健康づくりの取組の推進

いわて県民計画（2019～2028）第 1 期アクションプランでは、働き盛り世代の健康づくりに関連する指標を具体的推進方策指標※とし、取組を推進することとした。

### ① 働き盛り世代の生活習慣改善の取組の促進【拡充】

#### 具体的推進方策指標

「健康的な食事推進マスターの養成」 現状値(2017) 0 人 ⇒ 目標値(2022) 600 人

- ア 県内事業所における、内臓脂肪の「見える化」等による歩行数増加や食生活改善等の取組（企業対抗チャレンジマッチ）等の継続実施（県内 20 社、約 800 人）
- イ 行政保健師、管理栄養士等を対象とした「健康的な食事推進マスター」の養成
- ウ 令和元年度県民主体の健康度アップ支援事業の具体的成果の分析、PR 等

### ② 健康経営の取組の推進【継続】

#### 具体的推進方策指標

「健康経営宣言事業所数」 現状値(2017) 625 事業者 ⇒ 目標値(2022) 1100 事業者

- ア 健康経営認定事業所に対し、関係団体等と連携した支援（出前講座、アドバイザーの派遣等）の実施
- イ 健康経営認定事業所の増加に向けた**取組**
- ウ 健康経営アワードの**継続実施**

### ③ 岩手県脳卒中予防県民会議の会員拡大と全県への取組波及【継続】

#### 具体的推進方策指標

「脳卒中予防県民会議の会員数」 現状値(2017) 485 団体 ⇒ 目標値(2022) 620 団体

- ア 岩手県脳卒中予防県民会議（平成 26 年 7 月設立）への参画会員（令和元年 9 月末現在 542 団体）の拡大による会員の自主的な取組の推進、県民大会の開催
- イ 保健所を通じた参画企業の掘り起こし

### (3) 健康・医療・介護のビッグデータを活用した健康対策の推進

#### ① 健康・医療・介護のビッグデータを活用した県民の健康増進等の推進【拡充】

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【参考資料7】

ア 今年度、各医療保険者及び介護保険者等が保有する医科等レセプトデータ、介護データ及び特定健康診査等データを集積できる「岩手県医療等ビッグデータ利活用システム」（以下、利活用システムという。）を構築。

イ 令和2年度は、本システムを活用し、効果的な地域分析や施策展開等につなげるための人材育成を行うとともに、関係する職員等が多彩に活用できるための操作説明会、分析ノウハウ習得研修等を計画的に進める。

#### ② いわて健康データウェアハウスの運用及び周知還元、保健医療データの集計・分析【継続】

ア 健康課題評価委員会によるいわて健康データウェアハウスの集積情報の評価

イ 既存データを活用した地域課題説明等によるいわて健康データウェアハウスから得られた地域課題等の周知還元